

キリストによってキリストとともにキリストのうちに

主任司祭 吉池 好高

普段は雪の少ない地域でも、記録的と報じられる積雪に閉じ込められた厳しい冬でした。ミサに通う道も雪に覆われました。そんな中、かわるがわる聖堂までの道を付けてくださった皆さんに心より感謝いたします。被害に遭われた方々のことを思い、春の訪れを祈りたいと思います。

先月号から「いしずえ」巻頭言の紙面では、私たちの共同体のいのちの根であるミサにあらためて心を向けようと努めています。日曜日のミサがかじかんだ私たちの心を溶かすもとなることを願いたいと思います。そのためには、ミサそのものに私たちの心を向けなければなりません。第二バチカン公会議の典礼刷新によって、「対面形式」のミサが一般的となりました。「対面形式」というのは、司祭が信者の皆さんの方を向いて、対面してミサをささげるようになったということだけを意味するものではありません。

このような変更によって、ミサの焦点がより明確になりました。ミサに参加する私たちは、祭壇において御自分の神秘を示しておられるイエス・キリストと「直に」対面するようになったのです。ミサの中に響くことばが私たちにも理解できるものとなったことによって、ミサはイエスとの「対話」となり、キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに、聖霊の交わりの中で、父なる神への賛美をささげる「感謝の祭儀」であることが意識出来るようになったのです。ミサは、イエス・キリストの十字架の死と復活によって私たちにもたらされた神のいのちへの「過越」を記念する祭儀です。

私たちは洗礼によって、イエス・キリストのこの過越によってもたらされた神のいのちの中に招き入れられ、キリストに結ばれてキリストとともに神の子らとして生きる者たちとされたのです。キリストを通して私たちの中に注ぎこまれたいのちの中で私たちは、キリストとともに、キリストのうちに、一つにされて、これほどの恵みを与えてくださった私たちの父である神に賛美をささげるのです。キリスト者である私たちにとって、ミサこそが私たちの信仰のすべてなのです。そのことに心を向けたいと思います。